

## 二十歳の誓い

今日からちょうど一年ほど前、私は突然、家を追い出されることになってしまいました。それまで家事をほとんど手伝わなかった私に、耐えかねた母がこう言い放ったのです。「家族は皆で協力して成り立ってるねん。家のことを手伝わへんのやったら、この家に住む資格はない。それに、裕美ちゃんはこのままやったら将来生きていけないわけがない。社会に出る前に、自分一人で生活できるようになりなさい」と。そして翌日には、マンションの手続きまで済ませてしまったのです。私はしばらくショックで茫然としていました。それまでは、勉強をすることが家族の中での自分の役割だと思っていたのです。頑張って学費の安い国公立の大学に入ったし、親孝行もできていると勝手に満足していたのです。「何で！何で私の居場所が無くなってしまおうん…お金だって無駄やん！家に居させてよー！！」と、夜中まで泣き続ける日々が続きました。

しかし、4月になって独りで暮らし始めると、自分がどれほど甘い考えをしていたかが、痛いほどよく分かりました。慣れない家事に手こずって一日が終わってしまうこともあれば、大学の忙しさに追われ、気がつけば3日くらいロクに食べず部屋もゴミだらけ…ということもありました。「人間が一人生きるだけでこんなに大変なんだ…」と実感するとともに、母は仕事をしながら家族皆の分も家事をしていたのか…と考えると頭が下がる思いでした。そのことを有り難いとも思わず、家事も手伝わなかった私。家から追い出されたことで、色々なことに気づかせてもらいました。

そんな私ですが、今は医師を目指して勉強しています。大学での学びはとても大きく、命の大切さを改めて実感する日々です。ある時、実習先の病院でがんの患者さんにインタビューしたことがありました。その時に驚かされたのは、死の近い末期のがん患者さんが、ニコニコと笑って陽気に話してくれたことです。

20歳という不安定な時期にある私たちは、少しでも嫌なことがあればどん底のように暗くなり、他人のひと言で一喜一憂してしまいます。体力にも自信がないし、母のように結婚や子育てと仕事を両立させられるのか、自分の将来に対して不安がいっぱいでした。

そんな時に、死を受け入れ、限られた時間を前向きに過ごす患者さんの心の強さに触れ、「些細なことで悩むのはもうやめよう」、「今生きているという幸せを大切にしよう」と思えるようになりました。

これからどんな選択をしても、つらいことはたくさんあると思うのです。どんなに苦しいときでも、生きていることの幸せを忘れずに生きていきたい。そして、将来は妻として母として仕事をする女性として、後世の女性たちの指標となるよう軽やかにイキイキと生きていきたいと思います。

今を大切に、今を幸せに生きることを「二十歳の誓い」といたします。

今日は私たちのためにこのように盛大な式典を開催いただきまして本当にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

平成28年1月11日 新成人代表 加川裕美子